九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

中国古典様式家具の日本への受容過程に関する研究

石丸, 進

https://doi.org/10.15017/459015

出版情報：Kyushu University, 2005, 博士（芸術工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

序章　研究の目的と構成

序章　研究の目的と構成

1．研究の目的と背景

本論の研究目的は，わが国の室内構成要素としての家具文化の成立過程を，中国古典様式家具における表記，形態，接合技術，用材，坐臥具という家具要素の比較を通して，明らかにすることである。

本論で使用する家具という用語はすべて木製家具のみを指し，他の構造，材質をもつ道具は含めないことを原則とする。

奈良，平安時代から，日本の室内では，木器や調度が，室内に適度に配置され，間仕切する室礼のためのモノやコトとして存在していた。この，室内構成を意味する調度は，室内を設えるモノとして捉えられ，季節的で一時的な安定しないものであり，中国古典家具にみられるような存在観のある固定的なものではなかった。日本調度には家具の表記は見られないが，家具の概念が含まれていると考えられる。しかし，中国古典家具とは相違性が見られる。

日本の居住文化や家具形成に影響を与えたといわれながら，中国古典家具とのかかわりについての研究が少なく，実証性が少ない。特に，中国古典様式家具を，どのように変容させながら受け入れたかを実証的に比較研究したものは，管見の限り見当たらない。

日本では建築の研究に較べて家具研究が少なく，江戸時代の家具研究である『家飾具』[注 1]は，江戸中期に出版された『和漢三才図会』の中に見出される家飾具という言葉を再認識した研究である。中国の『三才図会』との関わりについては，触れられていない。そこで，中国家具と日本とのかかわりを研究することが，日本家具の位置付けのために必要であると思われる。

中国では，家具という言葉が生まれたのは漢の後といわれるように，歴史がある［注 2]。中国では家具の様式性や骨董的価値に対して関心が高く，古典家具が商品化され，そのため研究の需要があり，多くの古典家具研究や［注 3］家具研究機関が存在する[注４]。さらに，上海博物館には国家意識として明清家具館が設置され，中国を代表する，伝統的な明時代と清時代の貴族的民族意識を強く誇示した家具が収蔵展示されている。

清華大学美術学院には明式家具学会事務局があり，大学資料館には，文物史料として，明代を中心とした古典様式家具が収蔵展示されている。また，

南京林業大学には木材工業学院があり，大学院まで設置され，木製家具研究と人材育成がなされている。ところが日本では家具研究は少ないばかりか，家具は漆器史や木工史のひとつとして取り扱われて来た。つまり漆器品や木工品であり，家具という独立した視点でとらえられていない[注５]。ここに，中国古典家具の受容過程の中で，日本の家具文化との差異を比較研究してみるという，本研究の意義があると考えられる。

本論においては，中国古典様式家具をどのように変容させながら受け入れたか，室内構成要素の家具に視点をおき，その受容過程を文献史料と実地調査を通して検証し，日本家具の成立過程を詳細に考察していきたい。

1.1　本論における用語の規定

本研究で頻繁に現れる用語，誤解や表現の曖昧さを避けるために，本研究の立場から規定を行い，以下に整理する。

（1）　古典家具と古代家具

中国での古代とは，多くはアヘン戦争（1840）年以前をいうようである。日本では古代は，飛鳥，奈良，平安時代をいう。時代認識が異なるので本論は「古典」を使用する。

（2）　家具と調度

中国では家具を「家俱」また「傢俱」と表記することが，よく見られるが，家具を正しい表記と規定している［注６］。方言や俗語として，家伙・家活などがある。また南方の広東省などでは家俬という表記も見られる。

日本では，家具とは，家に備えて衣食住に役立たせる道具の総称とされるが，平安時代は調度といわれ，手まわりの道具や日常身のまわりに置いて使う道具，器具類，仕切りなどの装置，設備を総称する。江戸時代では調度が「家飾具」と変化している。調度とは道具の事をいう。道具とは仏道の具とあり［注７］，俗家では調度ともいうとある『貞丈雑記巻８』。

（3）様式家具

様式とは，ようす，かたち，特定の時代や民族，流派などにみられる独特の表現形態やスタイルを意味する。中国語では見本や形式そしてデザインなどの形状を意味する。

（4）用語や呼称としての表記

中国では，家具に関する専門用語として，家具名称や部品や接合名称を「名詞術語」と規定している［注９］。本研究では，用語や呼称を含めて家具表記

や家具接合表記と規定する。

（5）座と坐，坐臥具

座と坐は同じ字であるが，座は席や座席を意味し，座子とは器物を載せているも台や台座である。坐は，腰を掛けることや居座ることを意味する。坐具は椅子や腰掛そして敷物の類をさし，坐臥とは寝起きすることや起き伏しすることを意味する。本研究では中国で使用される坐臥具や坐具と規定する。

（6）厨と廚，橱と櫥

「厨」は中国語では「廚」の俗字である。「廚」はくりや，台所，方言として「たんす」があり，「櫃」も意味する。「橱」は「櫥」の俗字であり，櫃の類を意味するので，「廚」と「橱」を使用する。

衣橱や衣櫃は日本では箪笥，橱櫃は食器棚や茶だんすそして戸棚などを意味する表記である［注 10］。

（7）榫と枘

中国の接合表記で，榫とは器物の二部材の凹凸を利用してつないでいる個所の凸の方である。榫眼（卯眼とも言う）とは，ほぞの凹の部分であり，同意語に榫孔，榫槽などがある。中国では榫と榫眼が国家標準と規定されている。そして総合的な接合に関する事項には結合という名詞術語を使用している［注 11］。接合は共通の表記であり，日本での継や継手は中国での接合表記には見られない。中国の接合表記は榫，日本では枘と規定する。

（8） 俎と俎

「まないた」は『和漢三才図会』では，俎や木砧としている［注 12］。日本では異体字の略字である俎が多くみられる。中国では現在では俎は祭祀に使用し，砧や砧板をまないたとして使用している。本研究では俎と**俎**どちらも，こだわる必要はないと考え，俎を使用することを規定する。

（9）欅木とケヤキ

中国の用材としての樹木名は，『中国木材志』中国林業出版社の材名を支持して欅木や欅と規定した。日本の用材名は，およそ同じものと考え，木材学会で使用される片仮名で表記する。

（10）床（牀）と榻

中国の床は牀の俗字である。床（牀）はベッド・寝台で古代の坐具を指す。床几とは寝台と腰掛けを意味する。また，中国での床子とは古くは，寝台・露店用の商品台を意味した。日本の床几（腰掛け）や床子（上に人が乗って

坐す台で四脚がついている）は，日本化して変容した表記と考えられるので，本論では床と表記する。

榻の表記は，案と共に現在日本では一部しかみられない家具表記で，榻は坐臥具である。日本のタタミを，中国語では，榻榻眯や榻榻米（塌塌密）と，榻と米で表記している［注 13］。本論では床（床・床几）や榻（縁台）という。

(11) 凳と櫈そして杌

凳と櫈は同じで，日本では『和漢三才図会』にみられる。凳は腰掛で腕木や背凭れのないものを指す表記であり，本論ではそのまま使用する［注 14］。

凳は古くは杌子とも言う。杌とは背凭れのない方形の小さな腰掛（杌凳）を意味する。

2．既往の関連研究

中国古典様式家具と日本の家具とを比較することにより，共通点や相違点を実証し，どのように変容させながら受け入れたかの過程を，家具の名称や用材そして加工技術さらに，住様式における坐臥家具とのかかわりという点から検証する。それは，従来の家具研究において，家具の表記や技術そして，坐文化における家具用材の変遷など，中国と日本の家具に関する系統的な比較研究がなされていないと考えられるからである。

そこで，日本の家具名称や用材そして接合技術，さらに坐臥具に関して，共通点や相違点を調査し，変容しながら独自に展開した過程を解明し，日本の家具文化との関係を実証的に明らかにする必要がある。

既往の家具関連研究は「寝殿造の研究にみられる書院造の源流」「中国と日本住空間の比較研究」「中国建築の日本建築に及ぼせる影響の研究」「正倉院宝物にみる家具や調度」「中国古典家具の研究」「中国の腰掛けと椅子」「まな板の発達に見る機能，形態，材質の変化」などに大別できる。

2.1　寝殿造の研究ー床ノ間・付書院・棚・上段等の源流

太田静六：『寝殿造の研究』書院造の源流［注 15］では，鎌倉時代末に，前机と軸物との構成を我が国に導入して，これらを壁体中に押し込めて押板式床ノ間を完成した。また中国の床（牀）が和様化して壁面中に押し込んだ形で床框式床ノ間を創造し，床ノ間の源流が中国である，としているが，中国古典家具様式の細部の実地調査がなされていないために，名称や使用法に曖昧な見方がなされている。また東求堂の腰掛け型の床は，榻を壁体に取り込

んで固定したものとして榻が，原型である，としている。榻は牀の一種であるが条凳や長凳の可能性も推測される。また，鎌倉時代に導入され，考案された附書院の出文机も，窓と机とを一体化して壁面に取り込んだ結果であるとした見方がなされているが，机が中国家具の案や几そして卓のいずれを原形とするのか，その変容過程は実証的に明らかにされていない。それは家具という視点が欠けているためと思われる。

2.2　中国・日本住空間の比較研究

張綺曼：『中国・日本住空間の比較研究』［注 16］では，和風住宅の空間特色として，家具と建築の一体化であるとして，屏障具と間仕切りや坐臥具と畳そして収納具と押入れさらに，装飾具と床飾りの四道具の造作化，即ち家具と建築の一体化が和風住宅の特色であることを述べている。

2.3　正倉院宝物にみる家具・調度

小泉和子：『正倉院宝物にみる家具・調度』―中国・朝鮮の古代家具と正倉院家具―［注 17］では，日本化された中国家具文化に関しては，唐櫃は日本で開発したもので，中国や朝鮮にも唐櫃型の櫃はないとして，唐櫃というものは日本で生まれたものだと考えざるを得ない，とする。

2.4　日本史小百科，家具

小泉和子：『日本史小百科家具』［注 18］では，「椅子・テーブルなどの新しい器物類に対して，従来の道具とか家財では包括しきれなくなったために，「西洋家具」という新語を合成したとし，その時期を明治末から大正はじめ頃だとしている。

2.5　住空間の民族誌

浅川滋男：『住空間の民族誌』［注 19］中国江南の伝統的住居をめぐって，家具の実測と家具配置の調査，室名称と家具名称の聞き取りがなされているが，当時郊外農村では開放されていない地域も多く，聞き取り調査に難しさがあったようで，家具名称・表記に方言が多く認められる要因となっている。

2.6　住まいの民族建築学

浅川滋男：『住まいの民族建築学』［注 20］は，江南漢族の伝統的住居の庁堂や房間の家具と空間構成について調査したもので，中国の『長物志』や『魯班経』の呼称と江南漢族の伝統的住居との比較研究である。江南漢族の伝統的住居の家具呼称には地域性と個人思考性があり，中国の歴史的主要家具産地（蘇州や広州そして北京）の特色と家具名称や表記を基に，個々の家具名

称表記との比較検証を行う必要があると思われる。

2.7　中国古典家具の研究

財満やえ子：「中国古典家具の研究」［注 21］は，五山十刹図に示された宋代家具が禅宗と共に日本に請来したとし，その坐像の椅子（交椅と圏椅）のコンピューター図像解析を行った椅子の復原研究である。頂相彫刻にある椅子そのものや画像調査を基にしたた復元である。全体の形態は画像処理で復原しているが，細部構造や接合部材など詳細には及んでいないようである。

2.8　中国建築の日本建築に及ぼせる影響の研究

飯田須賀斯：『中国建築の日本建築に及ぼせる影響の研究』［注 22］は，基壇及び床面，架構材，開口，天井から室内の建具までの研究である。家具に関しては台脚としての格狭間（牙象・眼象と同物異名）を飛鳥時代に輸入し，それが玉蟲厨子の宮殿基壇及や須弥座そして正倉院所蔵の器物中に多数の例を存すると論じて，家具の格狭間（眼象）について触れている。

2.9　中国雲南省地床式住居の食事空間と食卓

車政弘：『中国雲南省地床式住居の食事空間と食卓』［注 23］では，雲南省少数民族の住生活における近代化過程の特徴として，食卓に対応する座具の座面高は 170～350mm 程度で，低い椅子文化が先行定着していることを示している。この腰掛は，現在中国の都市農村地域でも定着し残されていることを示している。

2.10　中国の腰掛と椅子

車政弘：『中国の腰掛と椅子』［注 24］では，中国の常民家具デザインとして，小凳子と呼ばれる腰掛をアノニマスの視点から調査している。楊柳科の山楊を使用し曲木加工して作られた小凳子と竹製の小凳子そして楊柳科山楊の圏椅の実地調査を基に論究している。小凳子はアノニマスな職人によって製作されて等閑視されてきたが，デザインを考えるとき，失ってはならない視点であることを考慮して，木製の凳について実地調査を行い，日本とのかかわりを試みている。

2.11　我が国における鉋の発達と引き動作の成立について

石村真一：『我が国における鉋の発達と引き動作の成立について』［注 25］この論文の中で，筆返しは中国明代の家具に広く普及していたもので，明らかに中国古典家具を参考にして意匠を展開している，と述べている。そして，違い棚に筆返しが付けられた事例は，京都妙心寺霊雲院（1543 年）を初見と

するとしている。この研究において中国の棚（架格）がどのような変容過程で，わが国に渡来したのか，日本の飾り棚・書棚・棚と比較して，筆返しの源流を含めて明らかにすることを試みている。

2.12　まな板の発達に見る機能や形態そして材質の変化

石村真一：『まな板の発達に見る機能，形態，材質の変化』[注 26] では，俎の形態と構造の中で，日本のまな板は，中国で成立した俎を原型にしている，としその根拠は商代の立板式俎のような脚が付けられた形態と，祭祀的な目的とする。さらに，祭祀的俎は，机や案そして卓などの木製家具の原型になったとし中国家具史におけるまな板の位置付けに論究している。

2.13　ジョイントシステムに関する研究—甚五郎国政の指物

安部蔵之：『ジョイントシステムに関する研究—甚五郎国政の指物』[注 27-注 30]は，門外不出の秘伝とされた甚五郎国政の指物についての研究である。

国政の特徴は釘を用いない「変形枘と逆枘」で，形態は洗練され装飾性に富み，強固な耐久性を発揮するなど，造形要素を調和させている。接合部全体を工作することを「仕楔」と呼び，明治以降「仕口」「千切り」と変化し，原意が失われている。蟻接合は蟻口を形象し，単独で使用し表に出さず，天秤は天秤を形象し，木口面に形が表出し，箱組に用いられるとしている。

2.14　党家村—中国北方の伝統的農村集落

車政弘　他：『党家村』家具・室内，世界図書出版，117-151，1992 は陝西省韓城市党家村の伝統的農村集落において晋式家具の影響が見られる，家具や室内を実地調査して，中国北方の伝統的農村における室内と家具の名称や構造そして室内配置を調査分析したものである。

2.15　中国農村部における椅子と生活のかかわりに関する研究

石村真一　他：『中国農村部における椅子と生活のかかわりに関する研究』住宅総合研究財団研究年報 27，77-88，2000 は，中国農村部で使用される伝統的な椅子が，地域の生活文化とかかわり，いくつかの生活形態に関する規範を形成した可能性を，調査によって検証したものである。

3．研究の方法および論文の構成

3.1.　研究の方法と対象

本論文の目的は，研究の背景と目的で示したように，中国古典家具の日本における受容過程を明らかにすることであり，そのための調査研究は次の項

目に集約される。

① 中国古典家具の表記や形態と日本家具の表記・形態との共通点と相違点。

② 中国の家具接合表記と技術そして日本の家具接合表記や技術の共通点と相違点。

③ 中国欅木家具の用材利用と，日本のケヤキ家具とのかかわりの明確化。

④ 中国古典家具の坐臥具の日本への受容過程の明確化。

①に関しては，日本の家具文化の原型は中国にあると考え，中国で出版された『三才図会』と日本で出版された『和漢三才図会』を一つの基礎資料として，中国古典様式家具を「どのように変容させながら受容したか」という過程を実証的に明らかにする。そこで，家具を「家具表記」「接合表記」「ケヤキ用材」「坐臥具」の四要素に分けて，それぞれの表記の受け入れ過程を調査する。中国家具については上海市家具研究所，上海博物館工芸研究部，南京林業大学木材工業学院の協力を得る。本研究では実地調査（フィールド調査）と文献史料による日本と中国の家具文化の比較を行う。

②においては，日本における家具接合表記は，木造建築とのかかわりと正倉院木器の接合などの文物史料について調査検証する。近世においては，家具接合表記の公式な使用が見られる文部科学省検定教科書について，接合表記の現状と接合表記の中国との関わりについて調査する。

中国の家具接合表記は，中国人民共和国国家標準に見られる家具工業常用名詞術語を参考資料とし，明式家具の接合表記を基にして，接合の形態と名称の地域別時代別調査をする。実地調査は，明式家具生産地の一つである蘇州と西安で紅木彫刻廠と西安市大衆木器庁の協力を得て行う。また，伝統的農村集落の伝統的古典様式家具や蘇州園林建築における家具の接合表記について，実物の実測調査を行う。さらに蘇州紅木彫刻廠において，伝統的接合技術により，接合を製作し加工法と工程を確認する。

③については，ケヤキ家具用材を中心とした中国古典様式家具の日本への影響に関する研究は，我が国で広く使用されたケヤキに着目し，その発達過程を中国様式家具との関連で調査し考察する。文献史料と実地調査は南京林業大学木材科学研究所の協力を得て木材資料を収集し，家具用材に関する文献史料や中国欅木分布の実態を調べる。

中国における用材実地調査は，中国の主要な伝統的家具産地の一つである江蘇省蘇州の園林家具や蘇州紅木彫刻廠などを対象に実施する。中国の伝統

的家具の用材については，明代の実物家具の調査を上海博物館で行う。

④は，坐臥具を中心とした，中国古典様式家具の日本への受容過程の研究における牀や凳の実態調査を，中国の主要な伝統的家具産地であり，明式家具の発祥地である江蘇省蘇州地域の園林建築で実施する。名称や形態そして用材に関しては，蘇州紅木雕刻工場の協力を得て，技術と木工具の伝承の実態を確認し，歴史的な検証を行う。さらに坐文化の中の小凳子に関する実地調査を行う。調査地域は伝統的農村の生活文化を継承していることを一つの条件とし，都市近郊地域と少数民族の山地を対象とし，二つの地域の生活実態をそれぞれ調査する。

3.2. 論文の構成

本研究は4章より構成されており，以下の通り論を進めた。

第1章　日本と中国における家具表記の比較研究では，中国古典様式家具の影響を強く受けていながら独自の展開もみられる，日本家具の受容過程と展開を検証し，曖昧な日本家具表記の成立過程を明らかにする。さらに日本の住文化や家具文化形成の要因と考えられる中国の伝統的家具様式や表記とのかかわりを，文献や実地調査によって明らかにする。

第2章　日本と中国における家具接合表記と技術の比較研究では，漢字文化を共有する日本と中国の接合に関して，歴史的変遷と伝統的接合表記を調査し，接合技術の共通性や相違性の比較研究を行い，中国接合表記と日本とのかかわりを明らかにする。そのために，家具表記や接合表記そして加工技術の比較研究から，形態特性と技術特性を比較考察する。そして，日中両国の接合技術の統一化や名称表記標準化の可能性を模索する。

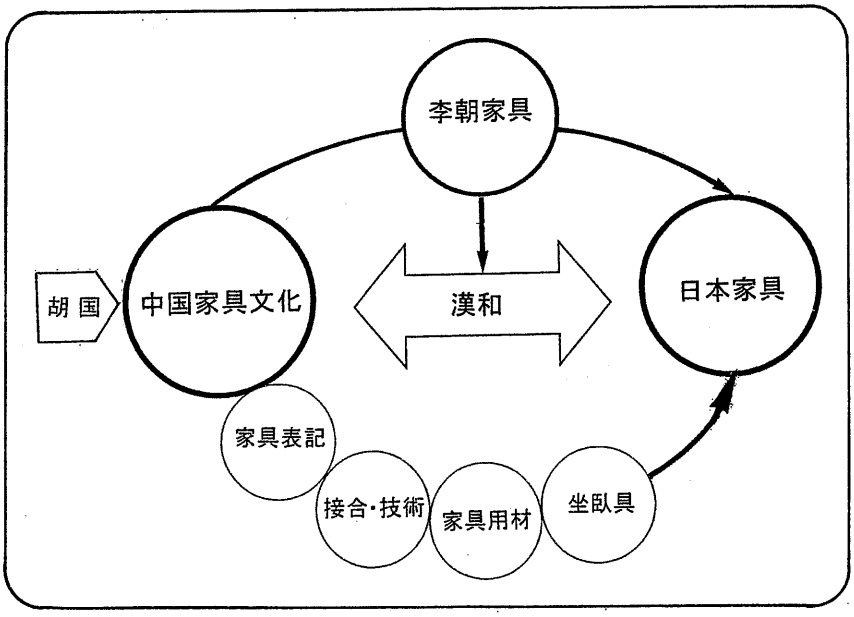
第3章　中国の古典様式家具の日本への影響—ケヤキ家具用材を中心とするでは，日本と中国の伝統的様式家具に深くかかわりがある家具用材について比較研究を行う。特に家具用材として中国と日本で共通性が確認されたケヤキ用材に着目し，その根拠と発展過程を，中国様式家具との関連で調査し検討した。さらに，韓国においても家具用材としてケヤキの使用が見られるので，李朝時代を中心にケヤキ家具文化を検討する。これには十九世紀初頭までのイギリス家具史の，用材による時代区分法［注31］を参考とする。家具用材の特性を史的変容の面から検証し，用材による時代区分を考察する。

第4章中国古典様式家具の日本への影響—坐臥具を中心としてでは，中国の坐臥具がわが国に請来し，坐臥文化に影響したと考えられるので，中国古典様式家具の中で牀や凳の坐臥具を中心に，両国の座文化と坐臥具に関する名称と形態や使用方の共通性や相違を調査により検証し明らかにする。

結語　研究の考察および結論では，本研究で得られた結果を総括すると共に，各章で得られた結果を横断的に検討する。また，各章ごとの，中国家具文化が日本に請来され変容した家具の変容過程を総合考察し，日本の和家具と居住様式に影響した要因のまとめを行い，中国の家具文化の日本化における変容過程を実証的に明らかにする。

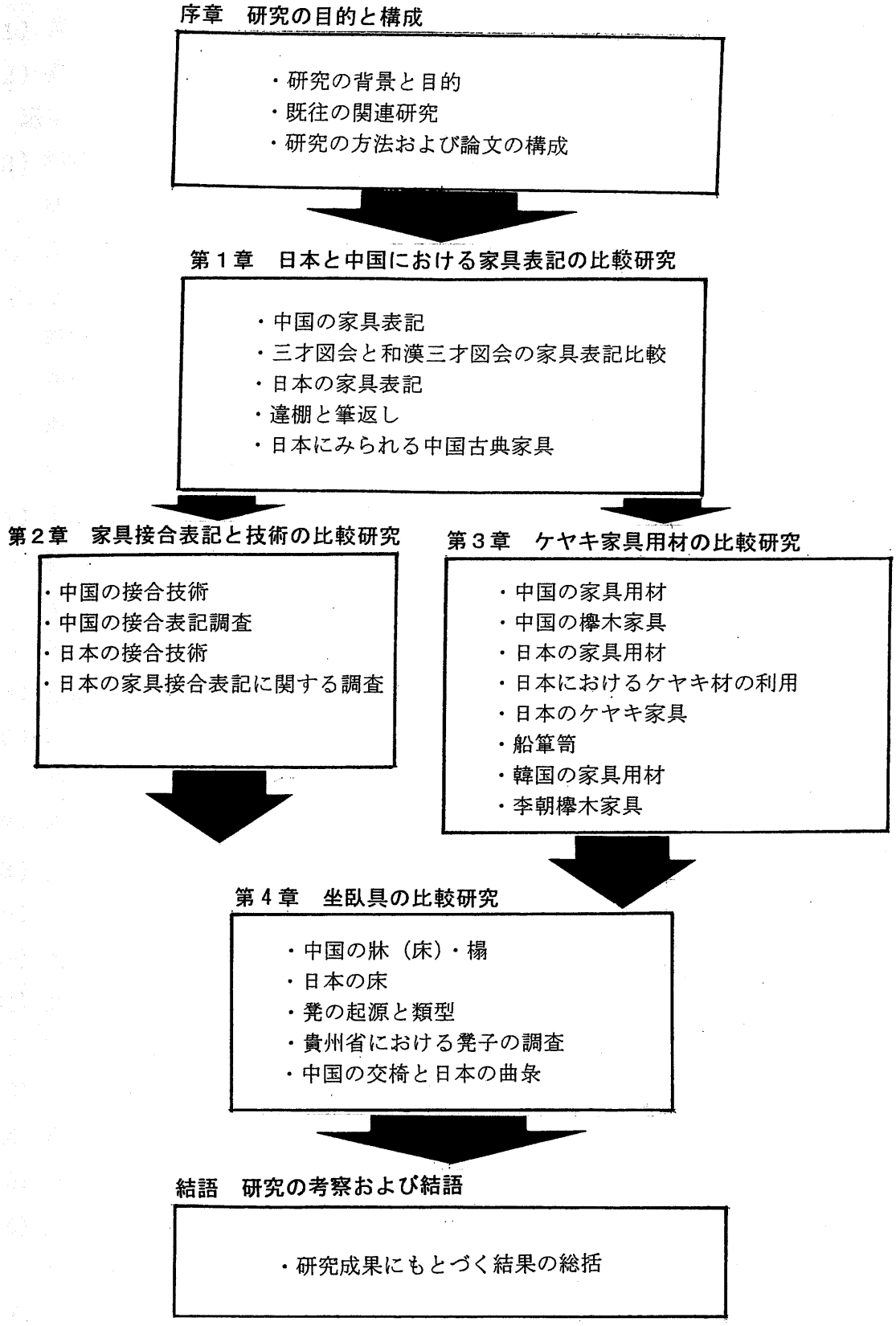
以上の中国家具文化の日本への受容過程図を図序-1 に，本論文の構成を図序-2 にまとめる。

註，資料に関しては巻末にまとめて記し，本文中に記載欄は特に設けない。



図序－1　中国家具文化の日本家具への受容過程図

参考資料　1



図序－2　論文の構成

序章の参考文献および注

1) 宮内悊：家飾具の歴史，第一法規出版，16，1989

2) 陳増弼：家具，中国家具協会，1981 明式家具学会会長で清華大学教授陳増弼先生の家具表記に関する論文から引用したものである。

3) 楊耀：明式家具研究，中国建築工業出版社，1986
胡文彦：中国歴代家具，黒龍江人民出版社，1988
胡文彦：中国家具文化，河北美術出版社，2001
李徳喜・陳善鈺：中国古典家具，華中理工大学出版社，1998
李宗山：中国家具史図説，湖北美術出版社，2001
王世襄：明式家具研究，三聯書店，1989
濮安国：中国紅木家具，浙江摂影出版社，1996
など，家具に関する研究や専門書が多い。

4) 上海市家具研究所は，中国家具の中心的試験研究機関である，また，国際家具展の計画実施，雑誌『家具』編集や専門書出版など情報センターでもある。家具に関する研究は，清華大学美術学院や南京林業大学木材工業学院そして上海博物館など幅広くなされている。

5) 吉田光邦：工芸社会史，日本放送出版協会，235 - 236，1987

6) 陳増弼：家具，中国家具協会，家具雑誌社，1981　陳増弼老師は中国清華大学美術学院の教授で中国明式家具学会の会長である。

7) 諸橋轍次：大漢和辞典，大修館書店，1950

8) 宮内悊：家飾具の歴史，日本の技術６，第一法規出版株式会社，1989

9) 人民共和国国家標準，家具工業用名詞術語，国家標準局，16-17，1982

10) 大東文化大学中国語大辞典編集室：中国語大辞典，角川書店，459, 1994

11) 前掲９）16-17

12) 諸橋轍次：大漢和辞典，巻七，大修館書店，1950

13) 前掲 10) 2973

14) 寺島良案：『和漢三才図会』，岡山大学図書館蔵

15) 太田静六：『寝殿造の研究』，書院造の源流，吉川弘文堂，889-941，1987

16) 張綺曼：中国・日本住空間の比較研究，３，デザイン学研究，53，31-36，1985

17) 小泉和子：正倉院にみる家具・調度，中国・朝鮮の古代家具と正倉院家具，紫紅社，194-202，1992

18) 小泉和子：日本史小百科家具，近藤出版社，1980
19) 浅川滋男：住空間の民族誌―中国江南の伝統的住居をめぐって，国立民族学博物館研究報告，国立民族学博物館，669-732，1986，
20) 浅川滋男：住まいの民族建築学，建築資料研究社，80-90，1994
21) 財満やえ子，鍵和田務：中国古家具の研究，五山十刹図に示された宋代家具の歴史的意義について，デザイン学研究，39，1997
22) 飯田須賀斯：中国建築の日本建築に及ぼせる影響，相模書房，1954
23) 車政弘：中国雲南省地床式住居の食事空間と食卓，デザイン学研究 149，9-18，デザイン学会，2002
24) 車政弘：中国の腰掛けと椅子，デザイン学研究特集号 1，2,28－35，日本デザイン学会，1993
25) 石村真一：我が国における鉋の発達と引き動作の成立について，道具学会論集，1，1－14，1999
26) 石村真一：まな板の発達に見る機能，形態，材質の変化，芸術工学研究，5，2002
27) 阿部蔵之：ジョイントシステムに関する研究（1），デザイン学研究，30，第 26 回研究発表大会概要集，118-119，1979
28) 阿部蔵之：ジョイントシステムに関する研究（2），デザイン学研究，32，第 26 回研究発表大会概要集，146-147，1980
29) 阿部蔵之：ジョイントシステムに関する研究（3），デザイン学研究，35，第 28 回研究発表大会概要集，92-93，1981
30) 阿部蔵之：ジョイントシステムに関する研究（4），デザイン学研究，39，第 29 回研究発表大会概要集，175-176，1982
31) 小泉和子：イギリスの家具，西村書店，3，1993